

◆ 2020 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 地域人ネットワーク

23A-32

代表者：代表理事 白瀧康次

URL : <https://chiikijin.com/index.html>

1. 活動が必要とされた状況

2008 年から、見沼田んぼに広がる埼玉県の公有地を利用したナタネの栽培と野菜づくりの農業体験教室を開催し、見沼田んぼの環境保全と食育を含む青少年の健全育成を目標とした活動を行なっている。2019 年度から新たに供与された公有地は、有機物の少ない畑のため、緑肥作物であるソルゴーやライ麦を休耕時期に栽培し、刈り取り時に細断して土壌にすき込むことで肥沃な土壌に改良して行く必要がある。特に、菜種栽培畑は 2,500 m²以上と広く、草刈機で裁断しながら刈り取る作業に多大な労力を要していた。このためハンマーナイフモアを導入して作業の効率化を図ることが必要とされていた。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

2020 年 10 月 3 日にハンマーナイフモアが納入され、サイサン環境保全基金のステッカーを貼り付けて（写真-1）、納入業者の指導で 3 名の運転者を指名して、運転方法の習得を兼ねてのソルゴーの刈取り作業を行なった（写真-2）。また、畑周辺農道の雑草刈取りも行なった。



写真-1 ステッカーの貼り付け



写真-2 ソルゴーの刈取り

3. 活動の成果

ソルゴーを裁断しながら刈取ってから前年度に助成していただいたトラクター型の耕耘機で緑肥を土壌に漉き込む作業が容易となり、広い畑の栽培が可能となった。また、畑に隣接する農道の雑草の刈取り作業も効率よくできるようになった。

4. 今後に残された課題

サイサン環境保全基金から 2019 年度にトラクター型耕耘機を助成いただき、ハンマーナイフモアと併せて広い畑で菜種の栽培ができるようになったが、今後に残された課題としては 5 月末から 6 月上旬の菜種収穫と脱穀作業である。

現在は 2 台の古い足踏み脱穀機で脱穀作業を行っているが、体力の消耗が激しく、会員の高齢化に伴って作業者の確保が困難になってきている。できるだけ早い時期に電動式脱穀機の入手が望まれる。